

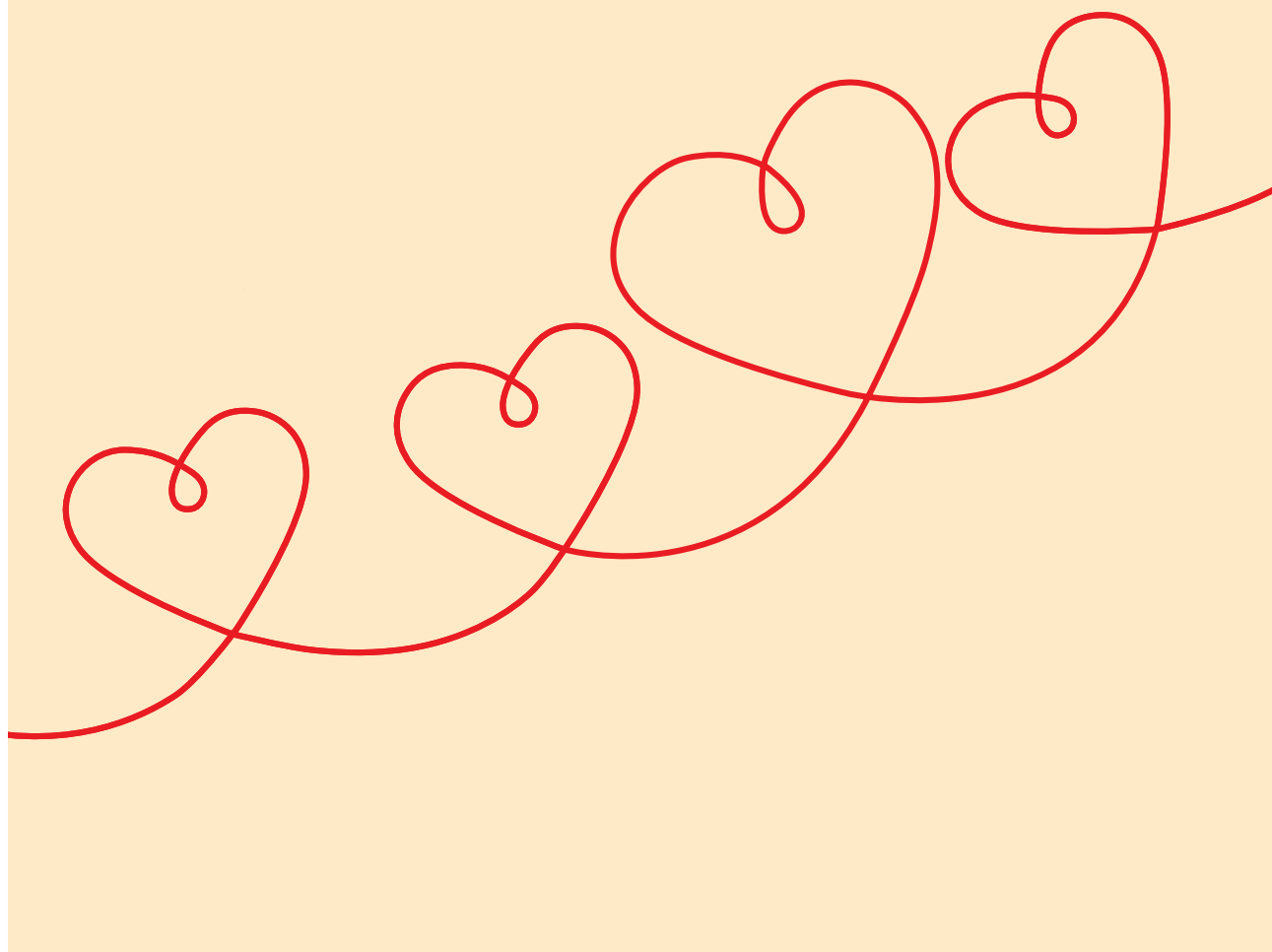
人権学習ワークシート集

—人権教育実践のために 第15集(小・中学校編)—

つながり

ひろげて

みんな^{しあわ}幸せ



平成29年2月

目次

● はじめに	2
● 学校教育における人権教育推進のために	2
● 人権意識を支える4つのキーワード	4
● ワークシート集の活用のしかたについて	5
● 人権学習ワークシート	
小学校1・2年生向け	
1 一人ひとりのちがいを認め合う「あなたのすきないろは？」	6
2 アサーティブな表現「どのようにつたえたらいいのかな」	10
3 相手の気持ちを考える「いわれるとうれしいことば」	14
小学校3・4年生向け	
4 相手の気持ちを考える「みんながえがおで楽しくすごすために」	18
5 自己肯定感を高める「とってもいいね、わたしらしさ あなたらしさ！」	22
小学校5・6年生向け	
6 とともに生きる社会「こまっている人はいないかな？」	26
7 他の人の大切さを認める / インターネットと人権「思いを伝えるのはむずかしい」	32
中学生向け	
8 自分や他の人の大切さを認める「大切にしたい一人ひとりの権利」	36
9 いじめについて考える「居心地のよいクラスについて考えよう」	40
10 人権尊重の視点で見直そう「よく見てみよう」	44
11 災害発生時の人権「すべての人の人権が守られる避難所にするために」	50

はじめに

児童・生徒が人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」を理解するとともに、それが態度や行動に現れるようになるよう、学校教育のあらゆる場面で人権教育を行うことが求められています。

このワークシート集が、学校における人権教育推進のための一助となれば幸いです。

学校教育における人権教育推進のために

●人権、そして人権教育とは

「人権」とは、「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」です。「生きていたい」「自由でいたい」「幸福でいたい」という、すべての人に共通する3つの願いを支えるものです。

そして人権教育とは、自他の人権を正しく理解し、相互に尊重し合うという人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動、つまり「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める」という気持ちを、水が土へと染みこんでいくように、自然にゆっくと児童・生徒の心の中に育てていくことです。

●学校教育における人権教育の在り方について

各学校が人権教育に取り組む際に、人権に関わる概念や人権教育がめざすものを明確にし、教職員が十分理解した上で、組織的・計画的に進めることが大切です。

平成20年3月に公表された「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」が、現在、人権教育に関して文部科学省が発行した最新の文書となっていますので、大いに活用してください。

その〔第三次とりまとめ〕では、学校教育における人権教育の目標を次のように示しています。

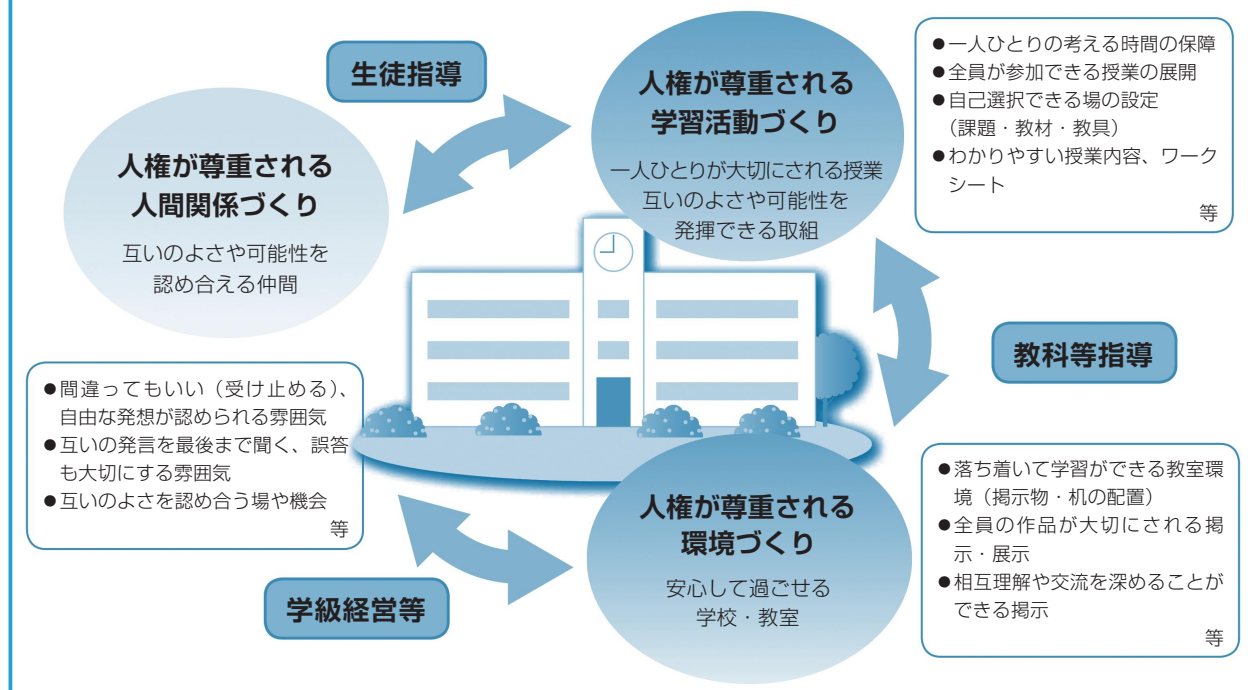
一人一人の児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、[自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすること

そのためには、人権や人権擁護に関する基本的な知識を確実に学び、その内容と意義についての知的理解を徹底し、深化することが必要となります。また、人権が持つ価値や重要性を直感的に感受し、それを共感的に受け止めるような感性や感覚、すなわち人権感覚を育成することが併せて必要となります。さらに、こうした知的理解と人権感覚を基盤として、自分と他者との人権擁護を実践しようとする意識、意欲や態度を向上させること、そしてその意欲や態度を実際の行為に結びつける実践力や行動力を育成することが求められます。

また、「各学校においては、上記のような考え方を基本としつつ、児童生徒や学校の実態等に応じて人権教育によって達成しようとする目標を具体的に設定し主体的な取組を進めることが必要である」とも示されています。

さらに、教科等指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権尊重の精神に立った学校づくりを進めていくべきとし、教職員による厳しさと優しさを兼ね備えた指導と、全ての教職員の意識的な参画、児童・生徒の主体的な学級参加などを促進し、人権が尊重される学校教育を実現・維持するための環境整備に取り組むことが大切であるとされ、また、こうした基盤の上に、児童・生徒間の望ましい人間関係を形成し、人権尊重の意識と実践力を養う学習活動を展開していくことが求められています。

人権尊重の視点に立った学校づくり



コラム①

隠れたカリキュラム

「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、児童・生徒自らが学びとっていくすべての事柄を指すものです。学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものです。人権感覚の育成には、体系的に整備された教育課程とともにこの「隠れたカリキュラム」という視点はとても重要です。

「いじめ」を例にとると、「いじめはいけない」という知的理解だけでなく、実際に「いじめ」を許さない雰囲気が浸透している学校・学級で生活することを通じて、児童・生徒ははじめて「いじめを許さない人権感覚」を身につけることができます。だからこそ、教職員一体となつての組織づくり、場の雰囲気づくりが重要です。

効果のある学校

今日、「効果のある学校」に関する研究が国内外で進められています。これらの研究では、「教育的に不利な環境の下にある児童・生徒の学力水準を押し上げている学校」において、学力の向上と人権感覚の育成とが併せて追求されている点に注目しており、人権感覚の育成は、児童・生徒の自主性や社会性などの人格的な発達を促進するばかりでなく、学校の役割の大事な部分を占める学力形成においても成果を上げているとの指摘を行っています。

一人ひとりの個性やニーズに応じた基礎学力を獲得するためには、学校・学級の中で、現実に一人ひとりの存在や思いが大切にされるといふ状況が成立していなければならないからです。

人権意識を支える4つのキーワード

1 自己肯定感（セルフエスティーム）

自己肯定感とは、自分の性格や能力などを肯定的に考えたり感じたりする感情のことです。「自分のあるがままを受け入れ、自分自身を大切にする。いろいろ欠点もあるけれど、自分が好き」という気持ちのことです。自分のことを大切に思うことが、他の人のことを大切にする気持ちにつながり、お互いを価値ある存在として認め合おうという意識を育てます。

この自己肯定感を育てることが、人権教育の基盤となります。

※ セルフエスティームは「自尊感情」と訳されることもあります。

2 想像力・共感的理解力

想像力・共感的理解力とは、他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどが分かるような力です。想像力・共感的理解力が、相手に対する思いやりにつながります。

3 相手を理解するためのコミュニケーション能力

コミュニケーション能力とは、自分の気持ちや意見をはっきりと相手に伝えるとともに、相手の気持ちや意見をきちんと受け止める力です。

※ コミュニケーションには、「話すこと」「聞くこと」だけでなく、「態度」や「身ぶり」「顔の表情」なども含まれます。「しっかり聞いていますよ。なるほど、そう感じているのですね。」という受容的な姿勢も大切にしましょう。

4 アサーティブな表現（非攻撃的自己主張）

アサーティブな表現とは、相手の意見や気持ちを思いやったうえで、自分の意見や気持ちを誠実に相手に伝える方法です。相手を攻撃するような口調で意見を言ったり、逆に伝えるべきことを言わなかったりせず、アサーティブな表現で話し合い、問題の解決をはかってみましょう。

また、「私は…と思いますが、あなたはどう思いますか？」のようにコミュニケーションのキャッチボールを心がけると、相手にとってもその気持ちを受け入れやすくなり、問題解決に向けて話を進めやすくなります。

ワークシート集の活用のしかたについて

- 1 このワークシート集は、県内の公立幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校前期課程、特別支援学校の先生方が、人権教育に取り組む際に活用することをねらいとして作成しました。
- 2 このワークシート集は、主として人権全般をテーマに誰もが取り組みやすいものを中心に作成しました。対象を小学校1・2年生、3・4年生、5・6年生、中学生に分けてありますが、この区分にこだわらず、学校や学年、学級の実態に応じて活用してください。
- 3 このワークシート集は、題材ごとにワークの解説や展開例及びワークシートを掲載しています。ワークシートを使って実践する前に、解説や展開例の留意点などを十分に参照してください。
- 4 ワークシート集は、神奈川県ウェブサイトからもダウンロードできます。

神奈川県 人権教育学習教材

検索

- 5 著作権上の制約があるため、別の冊子に収録したり、ワークシートの内容を変えて研究成果として発表したりするなど、授業や研修以外の目的で使用する場合には、神奈川県教育委員会に問い合わせてください。
- 6 各学校に配付されている「人権学習ワークシート集 一人権教育実践のために（小・中学校編）」の第13集及び第14集にも、多数のワークとその活用例が掲載されていますので併せて活用してください。第14集は個別の人権課題をテーマに作成しています。

■ 学習を進めるにあたって ■

- ・ 児童・生徒が、他の人の考え方を尊重しながら、意見や考えのちがいを認め合えるようにしましょう。
- ・ 他の人を傷つけるような言動があったときは、その学習の時間内で問題点を指摘し、適切に指導しましょう。
- ・ 学習の前に、ワークシートへの記入は書ける範囲とし、全部を書く必要はないことを確認しましょう。
- ・ 一人ひとりの児童・生徒が話し合いなどに参加しやすい雰囲気を作りましょう。
- ・ 児童・生徒が、ワークシートに書いた内容を他の人に見せたくない場合や、話したくない場合などには、個々の意志を尊重しましょう。
- ・ ワーク中に出された個人的な内容は、他の場では話さないことを確認しましょう。

一人ひとりのちがいを認め合う

1

あなたのすきないろは？

1 ねらい

性別に対して固定的な見方や考え方があることに気づき、性別に関係なく一人ひとりに好きなものや好きなことがあり、互いにそれらを認め合うことの大切さに気づく。

2 準備するもの

- ワークシート（上下を切り分ける）
- クレヨン
- マグネットなど（児童が色を塗った帽子のイラストを黒板に掲示するためのもの）

3 解説

人権教育においては、ありのままの自分を受け入れる自己肯定感や、多様性を認める心を育むことが大切です。しかし、子どもたちは、幼少期から「女の子はピンクや赤」「男の子は青や水色」など性別によって服や持ち物の色分けをされ、その経験から無意識のうちに固定観念にとらわれて、それらの色を選ぶことが当たり前、普通だと思ってしまうことがあります。そのことが、やがては「男だから」「女だから」という性別による役割分担意識を持つことに結びつくと考えられます。

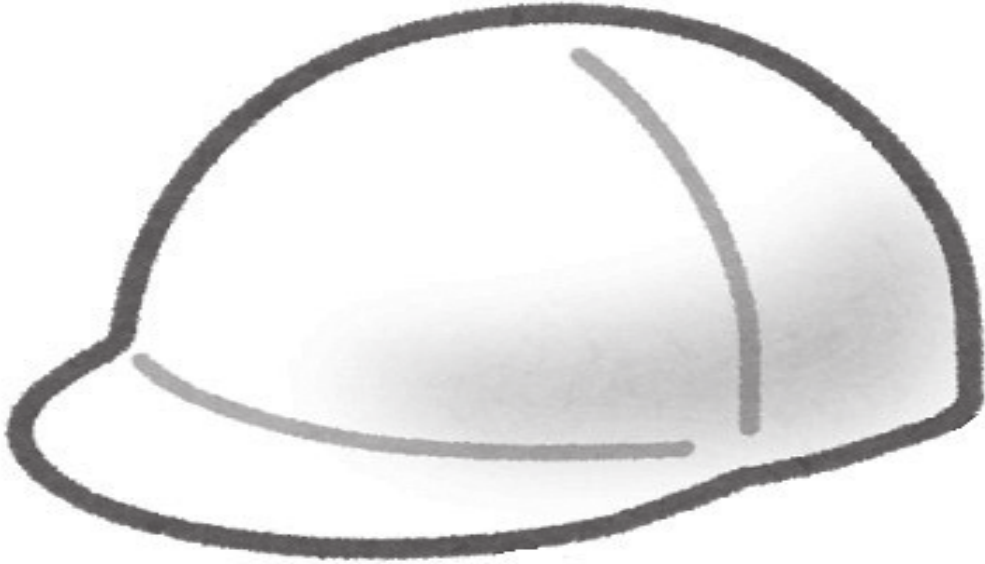
このワークでは、それぞれの児童の色に対する潜在的な意識を顕在化させるために、「性別からイメージされる色」で帽子を塗る活動を行います。次に、全員分の帽子を黒板に貼り、視覚的に固定観念や傾向を捉えられるようにします。その後、自分の好きな色などを確認し、好きなものや好きなことは性別に関係なく一人ひとり異なることを理解して、それらを認め合うことの大切さに気づくことをねらいとしています。

4 進め方（展開例）45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 7分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（5分）</p> <p>「好きな○○、自己紹介」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の一番好きな果物を思い浮かべる。 ②グループ内で「せえの」のかけ声で同時に発表する。 ③それぞれが発表したものをグループ内で確認する。 ④「好きな動物」「好きなおかし」などについて①～③を繰り返す。 ⑤グループで活動の感想を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで行う。 ・ねらいやアクティビティとのつながりから、一致しにくいものをテーマにする。
<p>・一人ひとりの好きなものには、ちがいがあることに気づく。</p>		

<p>展開 33分</p>	<p>◆アクティビティ (33分) 「男の子のぼうし・女の子のぼうし」</p> <p>①ワークシートの「〇〇のぼうし」の〇〇に自分の分担（男の子または女の子）を書き、帽子にクレヨンで色を塗る。</p> <p>②どうしてその色を選んだのかペアで話す。</p> <p>③ワークシートの色を塗った帽子を黒板に掲げる。</p> <p>④黒板を見て気づいたことや感じたことを、全体で意見交換する。</p> <p>⑤自分が好きな色を確認する。</p> <p>⑥性別によって思い込んでいることがないか考える。</p> <p>⑦⑥について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 男の子の帽子と女の子の帽子の人数が約半数になるように分担を決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【分担例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 男子は「女の子の帽子」、女子は「男の子の帽子」と思う色で塗る。 1～3班は「男の子の帽子」、4～6班は「女の子の帽子」と思う色で塗る。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 色の傾向を捉えやすくするために、1色で塗ること、塗った帽子は黒板に掲示することを伝える。 男の子の帽子と女の子の帽子がはっきりとわかるように、分けて黒板に掲示する。 児童の実態に応じて、児童が個々に掲示したり、誰が塗った帽子なのかわからないように授業者が集めて掲示したりする。 色の種類、明るさなど児童の着眼点を補足しながら発言を板書する。 全体的な傾向とは異なる色や、男の子にも女の子にも共通して使われている色も取り上げつつ、性別と色との固定観念に気づくことができるようにする。 男女で分けた色の傾向と一人ひとりの好きな色は必ずしも一致しないことを確認する。 好きなおもちゃ、好きな遊びなど性別によって好みが変わるようなものをいくつか取り上げ、好みにも多様性があることに気づくよう促す。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめの話を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 無意識に固定的な見方や考え方を持っていることに気づく。 性別に関係なく、好きなものや好きなことを選んでよい。 一人ひとりのちがいを理解し、尊重し合うことが大切である。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分が好きな色でワークシートの「わたしのぼうし」を塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して児童から出された考えなどをもとに、ねらいをおさえまとめる。 児童の固定観念は大人の影響が強いため、保護者にも学習内容を理解してもらうことをねらいとして、家庭学習などで扱うことも考えられる。

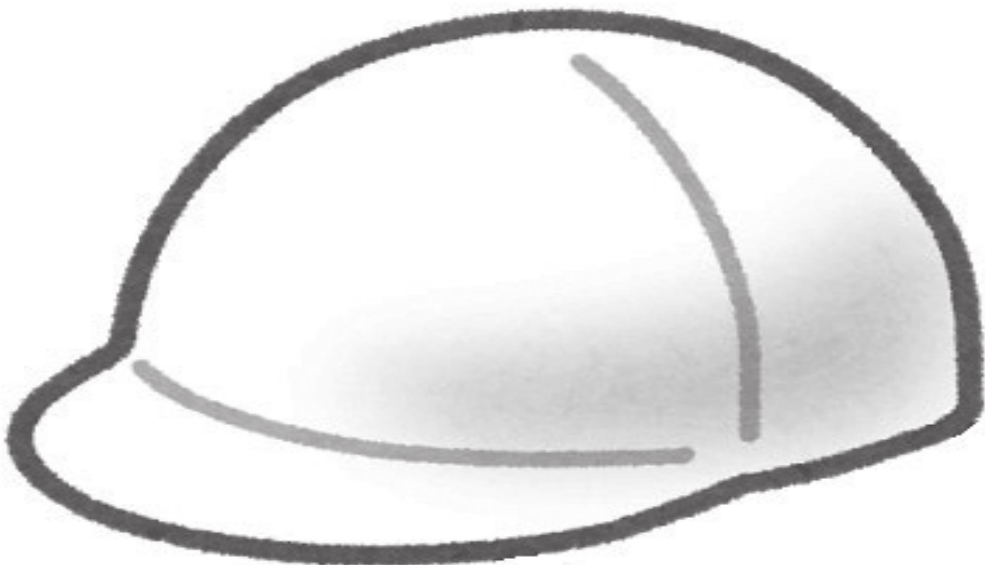
のぼうし



わたしのぼうし

()ねん()くみ なまえ()

わたしのすきないろは_____です。



コラム②

** 人権教育の重点 **

かけがえのない自分…自己肯定感を育てましょう。

- 自分自身をかけがえのない存在として、そのまま、あるがままに認めることができる自己肯定感は、自己を高めようとする向上心や達成意欲、日常直面する問題に対して、前向きに解決していくためのエネルギーになります。
- 自己肯定感は、他者との協調的・共感的な関係の中で育まれます。教師からの温かい言葉かけは子どもに安心感を与え、教師の細やかな配慮は子どもの心に思いやりの種をまきます。また、一人ひとりの成長を認めた励ましは子どもの自己肯定感を高めます。

差別は無知から生まれる…人権に対する理解を深めましょう。

- 自分に人権があるのと同じように他の人にも人権があります。人権問題は、すべての人の日常生活に関わっている問題です。まずは、「人権とは何か」「身近なところに人権問題はないか」など、人権について関心を持ちましょう。
- 人権について正しく理解するためには、自由、責任、正義などの諸概念や人権の歴史、基本的人権、様々な人権問題などについて、深く学ぶことが大切です。
- 神奈川県では「かながわ人権施策推進指針（改定版）」において、分野別施策として、「子ども・女性・障害者・高齢者・患者等・同和問題・外国籍県民・ホームレス・犯罪被害者等・北朝鮮当局によって拉致された被害者等・様々な人権課題」の11課題をあげ、人権問題の解決に向けての取組の方向性を示しています。

わたしも大切 あなたも大切…人権感覚を高めましょう。

- 人権感覚とは、人権が擁護され、実現されている状態を望ましいと感じ、反対に侵害されている状態を許せないとするような感覚のことをいいます。
- 人権感覚が健全に働くとき、日常生活の中で人権上問題のあるような出来事に対して、直感的にそれはおかしいと感じ、人権への配慮がその態度や行動に現れます。
- 人権感覚を高めるためには、自他の人権を尊重しようとする態度、多様性に対する肯定的評価、正義や自由の実現のために活動しようとする意欲などや、人の痛みや気持ちに共感する力、コミュニケーション能力、合理的・分析的に思考する力、偏見や差別を見きわめる力、情報を読み解く力を身につけることが必要です。

アサーティブな表現

2

どのようにつたえたらいいのかな

1 ねらい

人との関わりで問題が生じたときに、攻撃的になったり、がまんしたりするのではなく、相手の気持ちを思いやっとうえて、自分の意見や気持ちが伝わるように誠実に話すことの大切さに気づく。

2 準備するもの

- ワークシート
- ワーク1のイラスト（その1～その3）を拡大したもの（黒板掲示用）

3 解説

友だちとの関わりで問題が起きたときに自分の気持ちをうまく表現できず困ったことは、多くの児童が経験していることでしょう。アサーティブな表現とは、自分の意見や気持ちを正直に、率直に表現すると同時に、相手の気持ちを理解しようとする態度であり、相互の関係性を大切にしたい自他尊重のコミュニケーションです。

ワーク1では、うさぎの反応を手がかりにアサーティブな表現について理解します。ロールプレイを行うことでより実感を伴う理解へと結びつくでしょう。そして、ワーク2では、自他を大切にしたいコミュニケーションのとり方を考えます。互いが言葉をかけ合ったり、励まし合ったりする学級の風土づくりのための実践行動へと発展させることもできるでしょう。

4 進め方（展開例）45分

時 間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 3分	<p>◆学習の確認（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 	
展開 37分	<p>◆アクティビティ（37分）</p> <p>「だれのはなしかたが、じょうずかな？」</p> <p>ワーク1</p> <p>①「その1」「その2」の場面の状況を聞き、ねこさんはどのようにうさぎさんに話したかを考えワークシートに書く。</p> <p>②①について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「その1」と「その2」のイラストを黒板に掲示する。 【その1】 ねこさんがやめてほしい気持ちを怒りながら話す場面 【その2】 ねこさんがやめてほしい気持ちをはっきり言い出せずもじもじしている場面 ・児童から出された意見をもとにして、ロールプレイを行う。言われた相手がどのような気持ちになるか実感できるよう、1回目は授業者がうさぎさんの役を感情豊かに演じるなどする。

	<p>③②を見て、どのように感じたか、全体で意見交換をする。</p> <p>④「その1」「その2」とも、うまくいかないのはなぜだと思うか考え、ペアで意見交換した後、全体で共有する。</p> <p>⑤「その3」の場面の状況を聞き、ねこさんはどのようにうさぎさんに話したかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>⑥⑤について、全体に発表し共有する。</p> <p>ワーク2</p> <p>①サイさんはどのようにカバさんに話したかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>②①について、ペアで発表する。</p> <p>③②について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「相手の気持ちを考えていないから」や「自分の言いたいことを伝えていないから」などの意見を取り上げ、どうすればうまく伝えられるかの視点でまとめ、⑤につなげる。 ・「その3」のイラストを黒板に掲示する。 【その3】 ねこさんが相手の気持ちを考えながら、自分の伝えたいことを話す場面 ・使っている言葉だけでなく、表情、声の大きさ、話し方なども意識できるようにし、キーワードを板書する。 ・アサーティブな表現のよさを共有できるように、多くの児童が発表できるようにしたり、役をやってみて感じたことを聞いたりする。 【その4】 音読する声が聞き取れないことを、相手の気持ちを考えながら伝える場面 ・全員がそれぞれの役割を体験できるようにし、カバさん役の児童は、言われた感想を伝える。 ・話す内容を修正したり、学級の実態に応じて移動してペアを変えたりして、何度かロールプレイできるようにする。 ・他の児童には発表を見た感想を聞く。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して児童から出された考えなどをもとに、ねらいをおさえまとめる。
<p>・怒りをぶついたり、強い口調で話したり、がまんして黙っていたりするよりも、相手の気持ちを考えながら、自分の思いもきちんと伝わるように誠実に話そうとすることが、自他をともに認め大切につながる。</p>		

<参考資料など>

「人権教育指導資料Ⅵ 人権学習ワークシート集（下）」岡山県教育庁人権教育課（平成21年2月）

だれのはなしかたがじょうずかな？

()ねん ()くみ なまえ ()

ワーク1

うさぎさんはまい日、ねこさんのけしゴムをかりてつかっています。

「まい日じぶんのけしゴムをつかうことは、やめてほしいな」とおもったねこさんは、ある日、うさぎさんにそのきもちを、つたえることにしました。

それぞれのねこさんは、どのようにはなしたとおもいますか。

その1

こわいなあ。
なんで、うるさく
いうのだろう？



うさぎさん



ねこさん

.....

その2

なに？
よくわからないなあ。
いいや、かりちゃえ！



.....

その3

わかったよ、ごめんね。
あしたは、かならず
もってくるね。



.....

ワーク2

ここでのじゅぎょうで、音どくげき^{おん}をすることになりました。

カバさんのつぎが、サイさんのばんです。でも、れんしゅうをはじめると、カバさんのこえ^{ちい}が小さくて、サイさんにはきこえません。カバさんは、とてもきんちょう^{おお}しているので、大きなこえがでないようです。

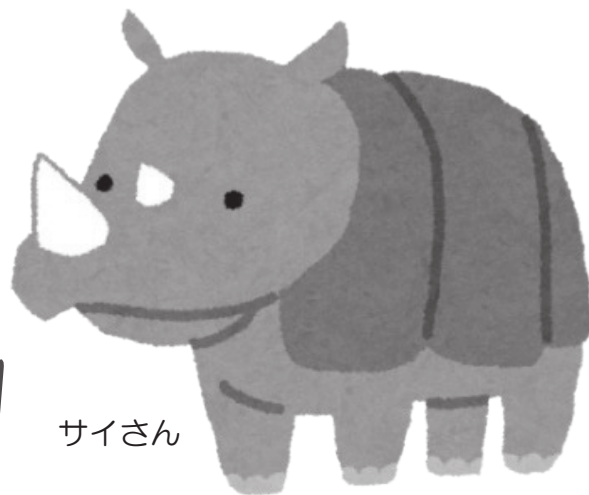
サイさんはいつよみはじめればよいのかわからず、こまってしまいました。

サイさんは、カバさんにどのようにこえをかけるとよいとおもいますか。

その4



カバさん



サイさん

..

.....

..

.....

相手の気持ちを考える

3

いわれるとうれしいことば

1 ねらい

友だちが困っている場面を想起しながら、相手の気持ちを考えて、どんな言葉をかけることができるかを考える。また、実生活で活用しようという意欲を高める。

2 準備するもの

- ワークシート
- ワークシートのイラストを拡大したもの（黒板掲示用）

3 解説

人権教育においては、自他の大切さを認め合うことの重要性について理解し、それが様々な場面や条件下で、具体的な態度や行動に現れるようにすることが大切です。

このワークでは他の人の立場に立って、その人の気持ちや、その人にとって必要なことを理解しようとする意識を育むことをねらいとしています。

このワークでは、学校生活の一場面を想定し、相手の気持ちを考えて、どのような言葉をかければよいか考えます。ワーク1では、「一緒に遊びたい」と思っている相手の気持ちを察して言葉をかける場面、ワーク2では、困っている児童とその状況を察して手伝う児童それぞれが言葉をかけ合う場面を設定しています。言葉の細かな言い回しばかりに着目するのではなく、相手の気持ちを察して言葉をかけようとする心情が大切であることや、表情や言い方によって印象が大きく変わること気づくようにするとよいでしょう。

4 進め方（展開例）45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「そう言ってくれて、うれしかったよ！」</p> <p>①友だちにかけられた言葉でうれしかったことを想起する。</p> <p>②①について、グループで順番に話す。</p> <p>③②について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループで行う。 ・他の児童が共感したり気持ちを理解したりできるように、その時の状況や自分の気持ちをできるだけ詳しく話すよう伝える。
	<p>・言葉は相手を励ましたり、喜ばせたりすることができる。</p>	

<p>展開 30分</p>	<p>◆アクティビティ (30分) 「いわれるとうれしいことば」</p> <p>ワーク1</p> <p>①場面の状況を聞き、一緒に遊びたいと思っている人の気持ちを考える。</p> <p>②一緒に遊びたいと思っている人にかける言葉を考え、ワークシートに書く。</p> <p>③②について、全体に発表し共有する。</p> <p>ワーク2</p> <p>①場面の状況を聞き、困っている人の気持ちを考える。</p> <p>②困っている人に対して、ほうきで掃く人たちがかける言葉を考え、ワークシートに書く。</p> <p>③ほうきで掃く人たちに対して、困っている人がかける言葉を考え、ワークシートに書く。</p> <p>④3人のグループになってロールプレイをする。</p> <p>⑤④について、全体にロールプレイを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワーク1のイラストを黒板に掲示し、「遊んでいる人」「一緒に遊びたいと思っている人」など、場面の設定を確認する。 かける言葉が考えやすいように、児童から出された意見をもとに「一緒に遊びたいと思っている人」の気持ちについて、授業者が演じる。 児童から出された「かける言葉」を板書し、その言葉を使って児童と授業者とでロールプレイをする。 言葉の内容だけでなく、「やさしく言う」「相手を見て言う」など、言い方にも着目できるようにする。 児童が場面を把握し、具体的な言葉を考えられるように、児童から出された意見をもとに授業者が場面を演じる。 それぞれの気持ちが理解できるように、役割を交代して、ロールプレイをするように伝える。 発表を見る児童の視点として言葉の使い方、話し方、表情などに着目できるようにする。 ロールプレイをした児童に、言葉をかけられてどのように感じたか聞き、肯定的な言葉をかけることで、お互いが温かく優しい気持ちになることを共有できるようにする。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して児童から出された考えなどをもとに、ねらいをおさえまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> やさしい言葉をかけられると自分が大切にされていると感じる。 困っている人を見つけたら、その人の気持ちを考えて「かけられるとうれしい言葉」を伝えたり、手伝ったりすることで、他の人を大切にできることにつながる。 </div>

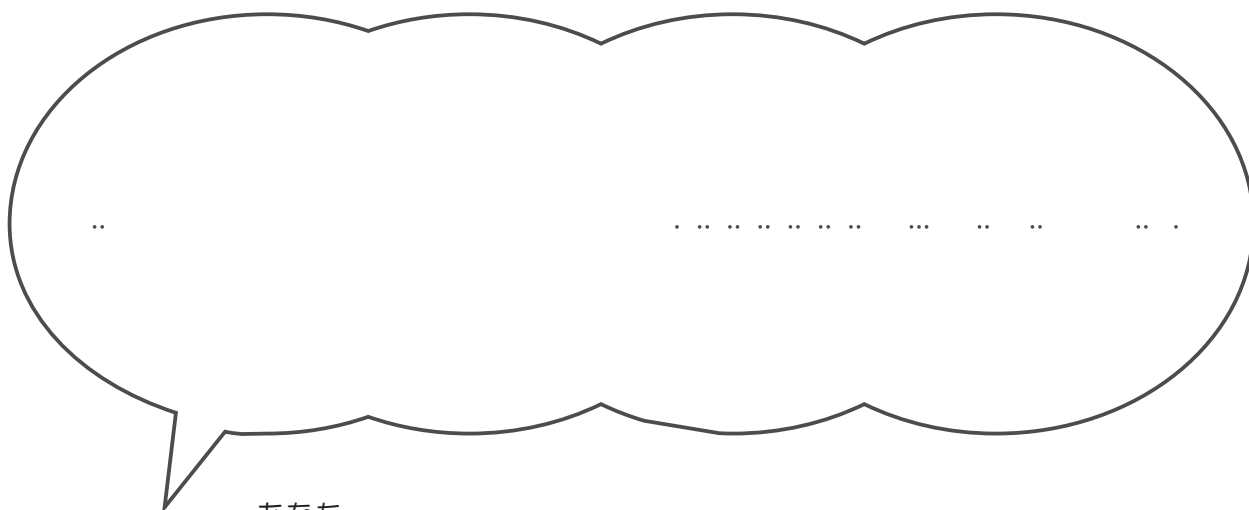
いわれるとうれしいことば

()ねん ()くみ なまえ ()

ワーク1

^{やす}休みじかに、すなばであそんでいました。
すると、いっしょにあそびたそうにしている^{ひと}人が、こちらを^み見ていました。

はなしかけることばをかながえましょう。



あなた



いっしょにあそびたいとおもっている^{ひと}人

ワーク2

ずここのじゅぎょうで、じぶんのかたづけが早く終わったので、きょうしつをほうきではいていました。すると、かたづけにじかんがかかって、こまっているようすの人がいたので、その人のつくえのまわりのそうじをすることにしました。

こまっているようすの人にはなしかけることばをかえましょう。また、そうじしてもらった人がかえすことばをかえましょう。



相手の気持ちを考える

4

みんながえがおで楽しくすごすために

1 ねらい

学校生活で起きた出来事について、登場人物の言動や気持ちを考えることを通して、相手の気持ちを思いやり推し量ったりすることの大切さに気づく。相手を傷つけるような言動をしない、させない、見て見ぬ振りをしない気持ちを養う。

2 準備するもの

○ワークシート

3 解説

いじめの問題が起きる大きな要因として、相手がどんなにいやな思いをしているかを考えずに行動してしまうということがあげられます。

このワークでは、学校生活で起きた出来事を題材にし、一人ひとりが軽い気持ちで行ったことが相手を傷つけたり、いじめにつながったりすることを再認識できるようにしています。いじめは絶対にいけないこと、相手の気持ちを思いやり推し量ったりすることの大切さをクラスで共有していくことが大切です。

4 進め方（展開例）45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「えがおになるのは、どんなとき？」</p> <p>①例を聞き、何をしているときに自分は笑顔になれるかについて考える。</p> <p>②①について、グループで発表する。他の人は順番に、「～のどんなところが好きですか」など質問したり、「わたしも～が好きです」のように同意したりする。</p> <p>③まとめの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4人程度のグループで行う。 授業者が例示し、児童から質問を受けるなどして、活動の流れが分かるようにする。 アクティビティも含め、他の人の回答に対して共感的に受け止めるように声をかけ、肯定的でない言動があった場合は、毅然とした対応をする。
	<p>◆相手の気持ちを積極的に理解しようとしたり、様々な気持ちを知ったりすることで、新しい見方ができたり、今まで気がつかなかったことに気づいたりできる。</p>	

<p>展開 32分</p>	<p>◆アクティビティ (32分) 「みんながえがおで楽しくすごすために」</p> <p>①場面の状況を聞く。</p> <p>②自分が授業中の教室にいたらどうしていたと思うかア～オの中から選ぶ。</p> <p>③Aさんはどのような気持ちになったかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>④③について、全体に発表し共有する。</p> <p>⑤Aさんもみんなも楽しく勉強したり遊んだりするためには、自分には何ができるかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>⑥⑤について、全体に発表し共有する。</p> <p>⑦自分がAさんのクラスメイトであるとして、①のあとのAさんにあてて手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のこととして考えるために選択するので、本心で答えられるよう○をしたりせず、心の中で答えればよいことを伝える。 「～しない」ではなく、「～する」という前向きな内容で書くように伝える。相手を傷つけるような言動を傍観したりせず、相手の気持ちに寄り添って行動することの大切さを理解するように促す。 ②③⑤で答えた内容をふまえて、手紙を書くように伝える。
<p>まとめ 3分</p>	<p>◆まとめ (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して児童から出された考えなどをもとに、ねらいをおさえまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「みんながえがおで楽しくすごす」ためには、他の人の気持ちに寄り添ったり、思いやったりするなどして、お互いの大切さを認め合い、尊重し合うことが大切であることに気づく。 いじめやいじめにつながるものが起きた時には、傍観したりせず、相手のつらい気持ちに気づき、いじめを防ごうと主体的に行動することの大切さについて理解を深める。 </div>

みんながえがおで楽しくすごすために

()年()組 名前 ()

学校で次のようなことがありました。

ある日の算数のじゅぎょう中に、みんなの前で、Aさんがかんたんな計算の答えをまちがえました。

それを聞いて、ある人が大きな声でわらい出しました。それを見た他の人たちも、くすくすわらいました。

Aさんは悲しそうな顔をして、いすにすわりました。

その日の昼休みのことです。クラスのみんなでおにごっこをして遊びました。

Aさんは走ることがにが手で、つかまえやすかったので、みんなはAさんばかりをねらいました。Aさんは何度もおにになりました。おにになっても、Aさんはなかなかだれかをつかまえることができません。

そのうち、Aさんは教室に帰ってしまいました。

みんなは、そのままおにごっこをつづけました。

- 1 もし、あなたが算数のじゅぎょう中の教室にいたら、どうしていたと思いますか。次のア～オの中からえらびましょう。

ア みんなに「やめなよ」と言うなどして、Aさんを助ける。

イ わらわないうで、だまっている。

ウ みんなといっしょに、くすくすわらう。

エ 大声でわらうなどして、Aさんをからかう。

オ その他

2 Aさんはどのような気持ちになったと思いますか。

算数のじゅぎょう中に答えをまちがえたとき

昼休みに、おにごっこをやめて教室へ帰ったとき

3 Aさんもみんなも楽しく勉強したり遊んだりするためには、あなたは何
をすることができますか。

.....

することができる。

4 Aさんに手紙を書いてみましょう。

.....

.....

.....

.....

自己肯定感を高める

5

とってもいいね、わたしらしさ あなたらしさ！

1 ねらい

一人ひとりにはちがいがあり、それは大切な「自分らしさ」であることに気づく。また、好きなものや好きなことを考える活動を通して自他の個性を肯定的に捉え、お互いを尊重し合うことの大切さに気づく。

2 準備するもの

○ワークシート1、2

3 解説

自分の大切さとともに他の人の大切さを認めるためには、自分の性格や能力などを肯定的に考えたり感じたりする「自己肯定感」を育てることが重要です。

このワークでは、自分はどのようなことが好きなのかを考えたり、他の人の発表を聞いたりする活動を通して「自分らしさ」を感じ、それを肯定的に捉え、自分を大切に感じる気持ちを育てることをねらいとしています。また、他の人の「自分らしさ」を知ったり肯定的に捉えたりすることにより、自分の大切さと同様に他の人の大切さも認めようとする気持ちの育成にもつながります。

4 進め方（展開例）45分

時 間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「わたしの好きなことは？」</p> <p>①ワークシート1の7つの項目について、「はい・いいえ」に○をする。</p> <p>②①で自分の答えた「はい・いいえ」について挙手で答える。</p> <p>③「自分らしさ」についての説明を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのちがいを意識できるように「1番『本を読むことが好き』で『はい』と答えた人？」「『いいえ』と答えた人？」のように、1項目ずつ全体に聞く。 アクティビティも含め、他の人の回答に対して共感的に受け止めるように声をかけ、肯定的でない言動があった場合は、毅然とした対応をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【説明の例】</p> <p>好きなものや好きなことは、人それぞれちがいます。「自分はどんなことが好きなのか」と考えることで、どんなことをしたいと思っているのか、どんなことを大切に思っているのかなど「自分らしさ」を感じることができます。</p> </div>

<p>展開 30分</p>	<p>◆アクティビティ (30分) 「自分らしさって何だろう？」</p> <p>①自分の好きなことや好きなものについて、ワークシート2の1～6の枠に書く。</p> <p>②グループで一人ずつ3つの項目について発表する。 他の人は好きな理由や詳しく聞きたいことなどを順番に質問する。</p> <p>③②を順番に全員行う。</p> <p>④「自分らしさ」の大切さについての説明を聞く。</p> <p>⑤いいなと思う「自分」についてワークシート2に書く。</p> <p>⑥⑤について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4人程度のグループで行う。 6項目のうち3項目を発表するので、すべてを書かなくてもよいことを伝える。 各項目について授業者が例示をしたり、児童から質問を受けたりして活動の流れが分かるようにする。 質問することが難しい場合は、「わたしも～が好きです」のように同意したり感想を伝えたりしてもよいことを伝える。 質問数や時間を決めるなどして、全員が発表し質問を受けられるようにする。 <div data-bbox="890 705 1423 1146" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【説明の例】 今日の授業では、自分の好きなことや好きなものについて考えて、「自分らしさってなんだろう」と感じてみました。あなたはどのような「自分らしさ」を感じましたか？ その「自分らしさ」を大切に思い、自分のことをかけがえのない存在と大事にしてください。そして、同じように、他の人が自分のことを大切に思うことも大事にしてください。みんなが自分のことを大切に思えるように、お互いの大切さを認め合いましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 書くことが思いつかない児童には、ワークシート2に書いた項目の中から選んでもよいことを伝える。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分) ・まとめの話を聞く。</p> <div data-bbox="347 1579 1391 1796" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなこと、好きなものを考えることを通して自分を見つめ、自己を肯定的に捉え、自分を大切に思うことが重要である。 「好き」と答えることも「好きでない」と答えることもどちらも大事な個性であることを認め、お互いを尊重し合うことが大切である。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して児童から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。

<参考資料など>

「男女共同参画啓発教材 小学生（中学年）対象 みんなちがってみんないい」佐賀県立男女共同参画センター（平成24年3月）

わたしの好きなことは？

()年 ()組 名前 ()

あなたは、次の1～7のことが好きですか。好きなことには「はい」に○を、好きではないことには「いいえ」に○をしましょう。

- 1 本を読むことが好き _____ はい ・ いいえ
- 2 外で遊ぶことが好き _____ はい ・ いいえ
- 3 パソコンやゲームが好き _____ はい ・ いいえ
- 4 車やバイク、電車など _____ はい ・ いいえ
乗り物が好き
- 5 スポーツが好き _____ はい ・ いいえ
- 6 りょうりをすることが好き _____ はい ・ いいえ
- 7 一人で遊ぶことが好き _____ はい ・ いいえ

自分らしさって何だろう？

()年()組 名前()

1 すきな遊び

2 すきな本やお話

3 むちゆうになること

自分のすきなこと、
すきなもの

4 すきな歌

6 すきな食べもの

5 しょうらいのゆめ

いいなと思う「自分」

.....

.....

ともに生きる社会

6

こまっている人はいないかな？

1 ねらい

社会には、多様な人がともに暮らしているということに気づく。誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする気持ちを養う。

2 準備するもの

- ワークシート
- ワークシートのA～Cのマークを拡大したもの（黒板掲示用）
- ワークシートのイラストを拡大したもの（黒板掲示用）

3 解説

社会には、国籍、宗教、年齢、性別など、「ちがい」のある様々な人が暮らしています。他の人と「同じ」であることを重視し、多数者を中心に考える社会では、少数者が不利益を被ったり、「ちがい」が差別や排除につながったりするおそれがあります。誰もが一度は自分が少数者になったり、人とちがったりして不安を感じたことがあるでしょう。子どもたちには、相手の立場に立って考えたり、「ちがい」を理解したりして、多様性を認め合える人になってほしいと願っています。

このワークでは、トラブルが起きた時に「困っている人はいないかな」という視点で、周りの人たちの様子を見ることから始まります。そして、相手の立場に立ち、「安心して目的地に行くために」「分かるように伝えるために」はどのようにしたらよいか解決方法を考えていきます。個人やグループで解決方法を探っていく中で、お互いの意見のちがいを認め合う姿勢や、様々な立場の人を想定し親切にしようとする心情の育成を目指します。

4 進め方（展開例）45分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項
導入 7分	<p>◆学習の確認（1分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（6分）</p> <p>「このマーク知っていますか？」</p> <p>①A～Cのマークについて、見かけた場所や何を表しているかを考え、ワークシートに書く。</p> <p>②A～Cのマークの名前と意味を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A～Cのマークを黒板に掲示する。 ・マークの表す意味が分からない児童には、デザインから思い浮かぶことを書くように伝える。 ・実生活につなげて考えられるよう「マークを見かけた時に、周りの人ができることは何か」についても全体に投げかけ、資料1を参考に具体的な事例を挙げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるマークについて知り、周りの人がその意味を理解し、必要な配慮をすることの大切さに気づく。 ・様々な人の人権を守ろうとする意識とともに、これらのマークを見かけた時に、自分ができることは何かを考え行動しようとする意欲を育てる。 	

<p>展開 33分</p>	<p>◆アクティビティ (33分) 「こまっている人はいないかな？」</p> <p>①場面の状況を聞く。</p> <p>②イラストの中で、移動するのに困難を感じるのはどのような人なのかを考え、その人たちが安心、安全に目的の場所に行くための方法や対応とともに、ワークシートに書く。</p> <p>③話が伝わっていない(?マーク)人は、どのような人なのかを考え、その人に分かるように内容を伝えるためには、どのようにしたらよいかとともにワークシートに書く。</p> <p>④②③について、グループで意見交換をする。</p> <p>⑤④について、全体に発表し共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 4人程度のグループで行う。 • イラストを黒板に掲示する。 • できるだけ多くの考えを書くように促す。 • 出された意見は肯定的に受け止めるよう促し、自由に意見が出せる雰囲気をつくる。 • 自分の意見と異なる場合は、ワークシートに追加して書くように伝える。 • ②③とともに、人によってニーズが異なるため、本人の希望を聞いたり、その場の状況を考えたりして、その人が必要とする配慮や支援をすることが大切であることを補足する。 • グループの意見交換の様子を把握し、多様な意見が出されるように指名する。
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> • まとめの話を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> • 高齢者や、乳児を抱えた人、車椅子に乗っている人など、混雑している状況や段差がある場所では移動が困難な状態の人がいることに気づく。 • 自分たちが当然のように聞き、理解している日本語のアナウンスが、外国の人や聴覚に障害のある人など、受け取る人によって正しく伝わらない場合があることに気づく。 • 社会には多様な人が暮らしていることをふまえ、事故や災害時などに限らず日常生活の場面でも、お互いに相手の状況や気持ちを理解し、配慮や協力などを行うことが大切であることに気づく。 </div> <ul style="list-style-type: none"> • ふりかえりをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業を通して児童から出された意見などをもとに、ねらいをおさえまとめる。

このマーク知っていますか？

()年 ()組 名前 ()

A～Cのマークについて、「どのような場所で見かけるか」「どのようなことを表しているか」など知っていることや思いうかぶことを書きましょう。

A



B

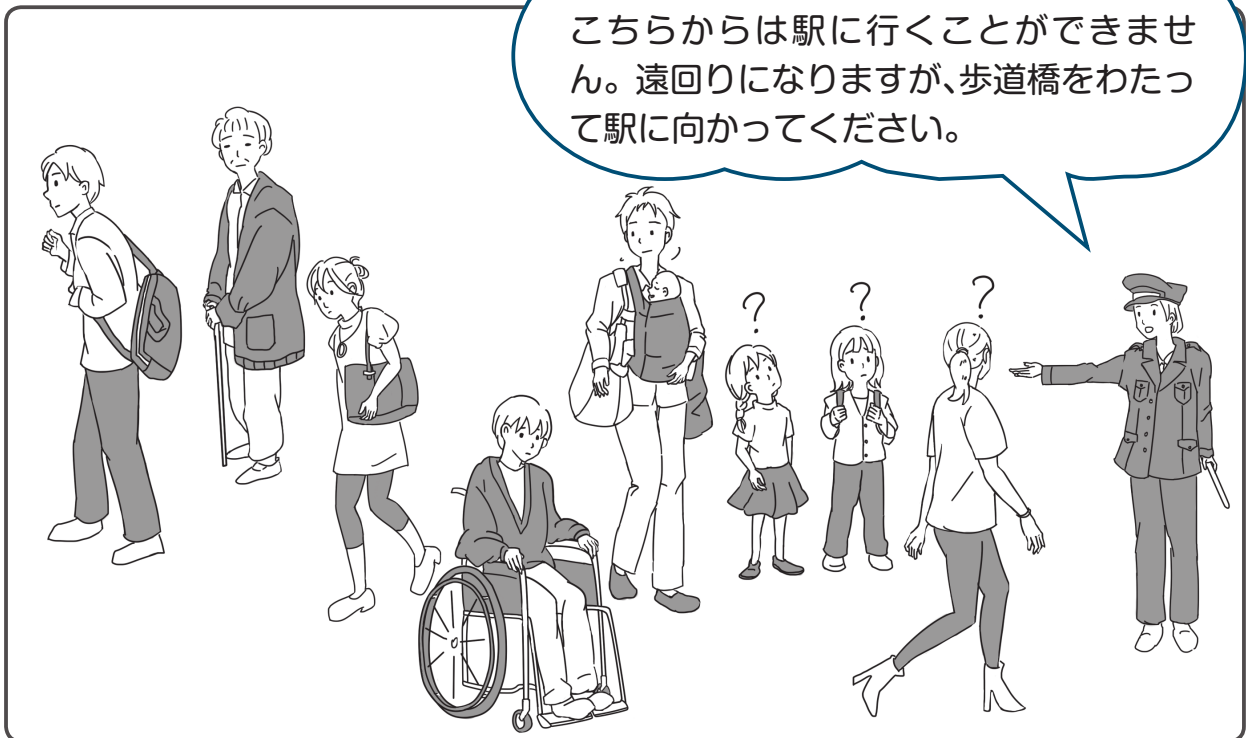


C



こまっている人はいないかな？

道路が通れなくなったため、歩いている人たちに向けて、お知らせをしています。



1 イラストにかかれていまする場面で、移動するのにこまってしまうのはどのような人だと思ひますか。また、その人たちが行きたい場所に安心して安全に行くことができるようにする方法を考へましょう。

どのような人	安心して安全に行くことができるようにするための方法

2 「?マークの人」は、話の内容が分からず、こまっているようです。「?マークの人」は、どのような人だと思ひますか。また、その人たちに、話の内容が分かるように伝える方法を考へましょう。

どのような人	分かるように伝える方法

3 今日の授業を通して考へたことや、気づいたことを書きましょう。

資料 1

このマーク知っていますか？



A 高齢運転者標識
自動車運転免許を受けている人で70歳以上の人は、加齢に伴って生ずる身体機能の低下が自動車の運転に影響を及ぼすおそれがあるときには、普通自動車の前面と後面の両方にマークをつけて運転するように努める。周囲の自動車の運転者は、危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークをつけた自動車に幅寄せや割込みをしないなど、安全に通行できるよう配慮しなければならない。
「高齢運転者標識を活用しよう！」警察庁ウェブサイト



B マタニティマーク
妊産婦が交通機関などを利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくするもの。また、交通機関、職場、飲食店などが、呼びかけ文を添えてポスターなどとして掲示し、妊産婦にやさしい環境づくりを推進するものである。
「マタニティマーク」厚生労働省ウェブサイト



C 「みんなのトイレ」の推奨マーク
神奈川県では、平成14年4月1日から、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、障害者、高齢者はもとより、だれもが円滑に利用しやすいトイレとして、「みんなのトイレ」を定め、整備を進めている。「みんなのトイレ」では手すり、洗面器、鏡、オストメイト対応の水洗器具などを適切に配置するほか、異性による介助の場合にも配慮し、男女共用としている。マークには県の鳥「かもめ」をデザインし、県条例に基づくトイレであることを表現している。

資料 2

ワークの回答例

1の回答例

- ◆車椅子に乗っている人
 - ・段差があるところは通れないため、スロープのある道やエレベーターを案内する。
- ◆杖をついている人
 - ・早く歩くことが難しいため、ゆっくり歩けるように道をあける。また、手すりのある側を通れるように配慮する。
- ◆子どもや荷物を抱えている人
 - ・長い距離や段差を歩くことが大変であることも考えられる。状況によって声をかけ、荷物を持つなど必要なことを聞いてサポートする。

2の回答例

- ◆聴覚に障害のある人
 - ・文字で書く。口の動きが分かるようにはっきりと伝える。手話で伝える。
- ◆日本語が分からない人
 - ・ジェスチャーやイラストで表す。やさしい言葉に言い換えて伝える。
- ◆幼児や小学校低学年の子ども
 - ・やさしい言葉に言い換えて伝える。

児童・生徒一人ひとりがかげがえのない存在として接していますか。

学校における人権教育を進めていく上では、まず、教職員が人権尊重の理念について十分理解し、児童・生徒が自らの大切さを認められていることを実感できるような環境づくりに努める必要があります。「教師が変われば子どもも変わる」と言われるように、教職員の言動は、日々の教育活動の中で児童・生徒の心身の発達や人間形成に大きな影響を及ぼし、豊かな人間性を育成する上でもきわめて重要な意味を持つのです。

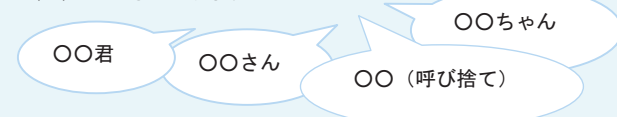
児童・生徒への対応について自分自身を振り返ってみましょう。

- 一人ひとりの声をきちんと受け止めて聴いている。
- 明るく丁寧な言葉がけをしている。
- 教育的ニーズを把握し、きめ細かな対応をしている。
- よさを認め、励ましている。
- 結果にとらわれることなく、取り組む姿勢や過程を認め、ほめている。
- 一人ひとりに対して分け隔てなく接している。
- 先入観や偏見を持たないようにしている。
- 小さな変化に気づき、迅速に対応している。
- 「同じ目の高さに立つ」など、共感的に理解するよう心掛けている。
- 文書の表現や言葉遣いに、十分な気遣いと配慮をしている。

人権的配慮って？

<例1>

児童・生徒に対するイメージや捉え方が呼名の違いにあらわれていませんか。



不公平と感じさせない配慮が必要です。

<例2>

児童・生徒の言動などへの否定的な評価に基づく改善点の指摘を他の子どもに求めていますか。

- 児童の発言した声が小さかった時、学級全体に

今の発言が聞こえましたか。

このような指摘は当該児童・生徒に対する負の評価を学級内で固定化してしまうことにつながります。

<例3>

自分の中の偏見や思い込みに気づいていますか。

女みたいな話し方だな。
もっとしゃきっとしろ。

この問題、普通はできるよね。できないなら小学校に戻ったほうがいいね。

「差別意識を助長する表現」「いやみな表現」「身体的特徴に触れる表現」などは児童・生徒の心を傷つけます。